

# 「自信を持たせたい」

英語教育やひらがな・カタカナの識字、算数……。こうした「知的教育」を、遊びの中に織り交ぜ、自然に学べるようにしている園は少なくない。あえて「知的教育を行わない」保育方針を掲げる園に、その狙いを聞いた。

(濱本高佑)



子どもも保育士もはだいで園庭を走り回る

## ■体験学習が主体

福岡市内に、大池けいあい保育園と愛宕けいあい保育園の2園を4月に開園した社会福祉法人さわら福祉会。両園とも、知的教育を行わないのが特徴だ。保育の中心となるのがアクティブラーニング(体験学習)。日々の活動計画に子どもた

ちの意見を取り入れ、子どもたちがしたいことにこだわる。

例えば、外で一日中走り回りたいという意見が多ければその通りにさせ、運動会でリレーを何回もやりたいということであればその意見も聞き入れる。

大池けいあい保育園の辻広明園長は「『明日やることは前日に決める』くらいの柔軟性があってもいいと思います」と話す。

## ■自己肯定感の向上

実際に知的教育を行わない保育園は全国にもあるが、それを保育方針に打ち出している園は少ない。辻園長は「子どもたちの自己肯定感を高めたいという思いからです」と説明する。

児童館職員を14年務めた経験から「学校は、全員の理解度が同じで

## 保育は・いま

< 13 >

## 体験学習に子どもの意見反映

なくても授業が進みません。次第に授業中に分らないことを聞けない雰囲気ができ、児童館で不満を漏らす子どもたちを何人も見てきました」と話す。

幼児教育の段階で好きなことが存分にできる環境があれば、言いたいことを言える勇氣、やりたいことをやる積極性が身につくと考えた。「こうした環境が、子どもたちの自信を育てることにつながるのではないだろうか」。

## ■要求される柔軟性

保護者の考えはどうか。小学校入学前の訓練として、少しでも知的教育に触れたいと考える保護者もいる。現に、開園前に聞いた説明会では不安を口にする人もいたという。

「知りたい、触れたい」という知的好奇心を刺激してあげることが重要だ。そういった子どもは、小学校に上がっても、勉強に興味を持って向き合えるでしょう。この説

明に、共感しない保護者はいなかったのだとか。

子どもと長い時間向き合う保育士にも柔軟な発想が求められる。

「保育士の皆さんには、ベテランも若手も保育の答えを決めつけないようにと言っています」。

あくまで優先するのは子ども。それまでの保育経験で「間違っているかも」と思っても立ち止まり、子どもの自由にさせてあげる勇氣を持ってほしいと訴える。

## ■コロナ禍も元気に

うれしい誤算もあった。保育士不足が叫ば

れる昨今にあって、募集人数の約1.5倍の応募があったという。辻園長は「もしかしたら子どもたちだけでなく、保育士が求める保育も、知的教育以外のところにあるのかもしれない」。

新型コロナウイルスの影響で、福岡市から保護者に対し登園自粛要請が出され、大池けいあい保育園は4割ほど、愛宕けいあい保育園は半分ほどの子どもが登園していない状況だ(4月21日現在)。それでも、園では外で遊びまわったり、泥遊びをしたりする子どもたちの声であふれている。

## プロフィール

社会福祉法人さわら福祉会  
(益田康弘理事長)  
大池けいあい保育園  
(辻広明園長)  
愛宕けいあい保育園  
(赤星佐保園長)

福岡市

◆遊びの中での体験学習(アクティブラーニング)を重視する保育方針。毎日の生活の中で、思う存分遊び、子どもの「やりたい」気持ちと時間を大事にする。(大池けいあい保育園)